製品名: BUILD.一貫Ⅳ+

項目1: 計算方法 項目2: 柱, 大梁, 断面計算

タイトル: 「BUILD.一貫Ⅲ」と「BUILD.一貫Ⅳ+」でS造の柱と梁のfbが異なる

Q.

「BUILD.一貫Ⅲ」と「BUILD.一貫Ⅳ+」でS造の柱と梁の許容曲げ応力度(fb)が異なるのはなぜですか？

A.

S造部材の許容曲げ応力度を求める際、「BUILD.一貫Ⅲ」では、2002年版「鋼構造設計規準」の式を使っていましたが、「BUILD.一貫Ⅳ+」では、2005年版「鋼構造設計規準」の式を使うように変更しました。

2002年版の式は横座屈式を分解した近似式ですが、2005年版の式は横座屈式から直接誘導された式で精度が上がっています。

なお、「BUILD.一貫Ⅳ+」Ver.1.284から許容応力度計算データの[DES3]で告示式(2002年版「鋼構造設計規準」)と2005年版「鋼構造設計規準」から選択できるようにし、デフォルトを告示式(2002年版「鋼構造設計規準」)に変更しています。